



建設通信

2016年4月号
Vol. 56

Qui クイックス株式会社
<http://www.quix.co.jp>
 東京都渋谷区宇田川町2番1号
 03-5456-1511 (TEL)
 03-5456-1811 (FAX)

サーバーによる一元管理で情報漏えいを防御する一方で、マイナンバー対策にUTMを導入する会社が急増している。コンプライアンスを積極的な考え方で行う会社は信用向上し、ひいては業績向上に繋がる近道であると確信している。発行責任者 牧坂 勝

高精度測位社会に対応するための環境と技術の整備情報

より高精度の測位を得るための技術と環境が整備されてくると、様々な業務に変革がもたらされます。測量業においては、マルチ GNSS を利用した測量マニュアル案が出され、従来よりも効率的に高精度の測位を得られる方法を選択できるようになりました。特に都市部での作業に変革が期待されます。衛星からの高精度の位置情報をリアルタイムに活用する事業も増えています。例えば、RTK-GNSS を活用して、国土地理院を中心に津波予測支援のシステムの開発が進んでいます。GEONET の一秒ごとのデータを RTK-GNSS で解析し時系列にすることで地震発生時に震源断層をリアルタイムに予想させることができます。高精度の位置情報をリアルタイムに得るための技術は、めざましく進歩しています。それを活用する環境整備の情報も合わせて、これからもチェックしていきましょう。例えば 2018 年度までに 4 基体制となる準天頂衛星(QZSS)に関する最新情報は、準天頂衛星システムの WEB ページにわかりやすく紹介されています。

内閣府宇宙戦略室 <http://qzss.go.jp>

マルチ GNSS 対応機器についてはクイックスまで

現場を読み解く～3Dデータの活用「i-Construction」始まる～

昨年末に国交省は「i-Construction」と名付けた、情報化を前提とした新基準を来年度より導入すると発表しました。この基準を導入することで、プロセス全体(測量・設計、施工、管理)の最適化を図り、現場全体の生産性を向上させる狙いがあります。そしてこの基準のポイントとなるのが「3Dデータの活用」です。3D レーザースキャナー、ドローン、MMS 等で計測した膨大な 3D 点群データをいかに快適に処理し活用できるかが課題となります。福井コンピュータでは既に、快適に処理するための商品※が開発されています。これからの現場は「i-Construction」の導入によって少人数での高い生産性を可能にしていくものと思われます。「労働力不足時代へ」と言われる今、「i-Construction」はこうした問題を改善するキーワードになっていくでしょう。

※商品名「TREND-POINT」別コラムで説明

クラウドサービス活用の注意点

dropbox や Google ドライブなど、クラウドサービスは会社でも個人でも今や欠かせない便利なサービスです。しかし、注意しないと大きな問題になることがあります。ここではクラウドのメリットとデメリットをおさらいしましょう。

メリット	デメリット
<p>★どこからでもアクセス可能 インターネット環境があれば自宅、屋外、海外問わずアクセス可能なため、仕事、プライベート問わず必要なファイルをどこからでも操作出来ます</p> <p>★データの保管/共有 サーバーの冗長化や地震/停電対策がしっかり取られているので、簡易的にバックアップデータの保存先として使用できる。また、他人と大きなデータのやり取りも可能になります。</p> <p>★費用対効果 設備の購入は不要なため安価で利用できます。価格は付帯するサービスによって様々ですが、おおむね月額 2,000 円ほどのプランなら基本的に必要な機能は得られます。</p>	<p>★セキュリティ面 データの秘匿性、事業者のセキュリティ対策レベル、トラブル時の対処方法などの懸念材料があります。</p> <p>★通信速度 インターネット網を利用することに加え、大勢が利用するサーバーにアクセスするため安定した通信速度が得られない場合があります</p> <p>★システムの運用 ローカルで使用していたプログラムがクラウド上では使用できない、移行できない、動作しないなど、運用面での問題があります。</p>

安全性と利便性の高い基準を同時にクリアすることは難しいので、こうした注意点を踏まえ、ある程度のところで折り合いをつけて使用するなら、便利なサービスとなるでしょう。

3D点群処理システム「TREND-POINT」

「TREND-POINT」が Ver3 となって登場しました！！
これまでと違う点をご紹介します！！

★点群データの処理スピードの大幅 UP

処理スピードに定評のあった前バージョンからの大幅 UP。10 億点以上の大量点群の読み込み時間が前バージョンの半分になります。※約 57 億点の点群データを処理することが可能

★等高線を作成、編集が新機能として追加された

地形図の等高線から mm 単位の細かな道路の変状まで、等高線で表現が可能。作成した等高線は「BLUETREND XA」に連携させ、出力することができます。

★点群データから断面を抽出

これまでは線形データから断面を抽出していたが現バージョンより任意で断面を抽出可能になりました。

★座標点の入出力

座標値が分かっている点を目印として配置。測点の配置や工区割りの、点検箇所を目印など、利用シーンが大幅に広がります。

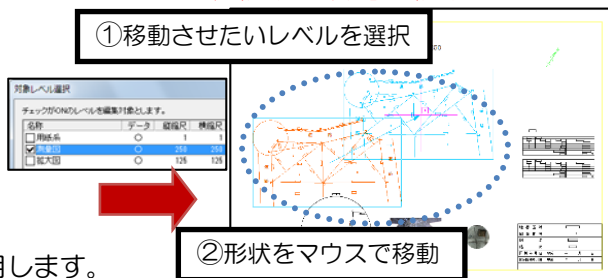
「i-construction」を強力に支援する「TREND POINT ver3」絶賛販売中です！
お問い合わせは 03-5456-1511 まで

ワンポイントアドバイス

座標系を変更せず移動したい時→「レベル編集」

プロット点(座標点)は線や文字の要素と違い通常の移動コマンドを使用すると、座標の“ずれ”が生じます。回避するためには「形状移動(1点)」か「用紙移動(1点)」というレベル編集の移動を使用します。

「形状移動(1点)」の移動方法



「用紙移動(1点)」の移動方法

